

日本型教育の海外展開(EDU－Port ニッポン)
令和5年度 予測困難な時代の学びを保障する学習手法の共有と海外展開に関する調査研究
申請書

申請者	機関名	
	代表者役職名・氏名(ふりがな)	
	郵便番号	
	所在地	
	HP	
連絡担当窓口	氏名(ふりがな)	
	所属部署・役職名	
	郵便番号	
	所在地	
	電話番号	
	E－mail	

1. 調査の名称・概要等

名称(30 字以内)	
目的(50 字程度)	学校の臨時休校による A 国 B 校の〇〇〇とその改善方法を明らかにする。
概要(150 字程度)	
対象国・地域	

2. 公募要領上で求められている要件への対応について

No.	必須要件	各項目必ず記載、200 字以内
1	本調査において調査の対象となる国・地域のニーズや現状の教育課題はどのようなものですか。	A 国では、2020 年〇月以降、学校が臨時休校され、児童生徒はテレビ授業やオンライン教育等の遠隔教育を受けている。これに伴い、行政/学校現場/児童生徒は、〇〇や〇〇という状態になり、〇〇や〇〇などの課題を抱えている。さらには〇〇などの対応も必要となっている。
2	1で記載した教育課題解決等に、どのような日本の特色ある取組をどのように用いる計画ですか。	上記の課題について、日本の〇〇では、従前より/コロナ後から〇〇の対応をしており、課題に対処できている/当初は〇〇であったが、〇〇〇と改善された。また、〇〇〇〇〇〇。こうした取組を、A 国の行政/学校現場/児童生徒が直面する〇〇や〇〇などについて活用する。
3	2に記載した取組を、現地で戦略的に展開するため、現時点では、どのような方策をとることを検討していますか。	まず連携先である〇〇において、〇〇を試験的にを行い、効果の程度、現地関係者の反応、現地向けアレンジの必要な部分等について精査などを行う。次に、現地〇〇向け〇〇研修・説明会などを〇〇と連携して開催し、〇〇〇する。さらに、国内の〇〇と現地の〇〇を結び付け、継続的に〇〇〇する環境を構築する。また、〇〇を〇〇に指定し、そこを〇〇の展開の拠点としていく。
4	調査対象となる国・地域においてカウンターパートの協力は確保できていますか。	☒ はい / ☐ いいえ 調査対象となる国・地域のカウンターパート:A 国 B 学校 カウンターパートとの関係: 姉妹校
5	どのように調査結果を国内に還元する計画ですか。	計画全体を通じて、国内の〇〇校〇件の参画を予定しており、〇〇担当教員の議論の場を用意している。また、A 国 B 学校での取組を通じ、日本の〇〇の意義役割を再認識する機会となることも期待している。取組の成果を論文にまとめ、〇〇学会の学会誌に投稿したり、全国大会で発表したりすることを計画している。

6	本調査は SDGs や ESD にどのように貢献しますか。	本調査を通じて、A 国の〇〇について〇〇〇〇を実施することは、現地の〇〇〇や〇〇、〇〇などに資することであり、ひいては SDGs 目標〇の「〇〇〇」の実現に貢献するものであると考える。
---	-------------------------------	--

No.	加点点項目	任意記載
1	国立大学法人、公立大学法人、学校法人、地方公共団体、地方教育委員会や独立行政法人をパートナーに含め、これらの機関の国際化・質的向上に資する調査ですか。	パートナー機関： 〇〇法人〇〇学校、〇〇法人〇〇支局 どのように国際化・質的向上に資する計画ですか(150 字以内)： 本事業では、〇〇学校の〇〇教員が現地〇〇研修に講師として参画する予定である。また、両国の教員同士のワークショップも予定している。〇〇支局は〇〇〇の参画を予定している。以上から、本事業は、上記パートナー機関の参加者の〇〇語の力、コミュニケーションスキルなどの向上に資するとともに、〇〇といった国内指導資料などの改善などにもつながる予定であり、こうした点で関係機関の国際化など質的向上にも資する予定である。

3. 調査内容・実証活動及びスケジュール

調査内容及び実証活動について、いつ、どのような活動を実施し、どのようなアウトプットが期待されるか、説明してください(活動を 3～4 つ程度にまとめて記載)。

	調査内容・実証活動	期待されるアウトプット
活動 ①	日本、A 国の〇〇について比較する。 ・現地で使用されている〇〇に関連する〇〇を、コロナ発生後の視点で、日本と比較分析し記載内容の課題を明確にする。 ・〇〇について説明資料を作成し、勉強会を開催する。 ・B 校にて…	・A 国の〇〇の現状、課題が明らかになる。 ・参加予定者〇名において、対処すべき課題や方策に対する共通理解が得られる。
活動 ②	…	…
活動 ③	…	…
活動 ④	本校、B 校の取組を発表する。 ・取組を論文にまとめる。 ・〇〇学会の学会誌に投稿する。 ・全国大会で発表する。	・〇〇学会の学会誌に論文が掲載される。 ・〇〇学会の全国大会で発表する。

スケジュール

	1 年目			2 年目			
	第二四半期 (7 月～9 月)	第三四半期 (10 月～12 月)	第四四半期 (1 月～3 月)	第一四半期 (4 月～6 月)	第二四半期 (7 月～9 月)	第三四半期 (10 月～12 月)	第四四半期 (1 月～3 月)
活動①	←→						
活動②		←→					
活動③			←→		◆授業		
活動④						←→	◆学会

凡例: ◆ = 研修など数日の活動 ←→ = 教材作成など長期にわたる活動

4. 調査の規模

本調査への参加人数	目標値	
	R5 年度中	R6 年度中
日本側の教員、職員、指導者および学生・生徒・児童・園児の数(人)		
相手国側の教員、職員、指導者および学生・生徒・児童・園児の数(人)		

5. 調査の実施体制

連携する他の機関とどのような役割・責任分担で実施するのか、簡潔に説明してください(150 字以内)。

全体の企画、実施管理については、申請主体である〇〇が行う。〇〇法人〇〇学校は、活動②に記載の〇〇に〇〇の専門家〇名を派遣する。また、活動③に記載の〇〇研修の内容等についても〇〇法人〇〇学校が主担当で作成する。 〇〇法人〇〇支局は A 国 C 大学との関係が構築されているため、活動④の C 大学との取組について中核役として計画を進める。	
日本側連携機関	〇〇法人〇〇学校 〇〇法人〇〇支局
相手国側連携機関	A 国 B 校 A 国 C 大学

6. 過去の実績

本調査の実施に資する実績について簡潔に説明してください。過去に EDU-Port ニッポンで採択された実績がある場合は必ず記載ください。

実績の概要(100 字以内)	本調査にどう活かしますか(100 字以内)
令和 2 年 EDU-Port ニッポン応援プロジェクト ・A 国において、〇〇を目的に〇〇の活動を実施した。	

--	--

7. その他（任意記載）

1.～6. で記載しきれなかった事項がある場合は、記載してください。（200 字以内）

--

8. 応援プロジェクトへの併願の希望の有無

EDU-Port ニッポンでは、現在応援プロジェクトの公募も行っております。調査研究で不採択となった場合、応援プロジェクトでの採択を希望する場合は、併願することが可能です。その場合、経費支援はありませんが、基本的に本調査研究の申請書に記載いただいた内容に沿って、応援プロジェクトを実施いただきます。併願の希望の有無について、どちらか選択してください。応援プロジェクトの詳細につきましては、応援プロジェクトの公募要領をご確認ください。

☒	希望する
☐	希望しない